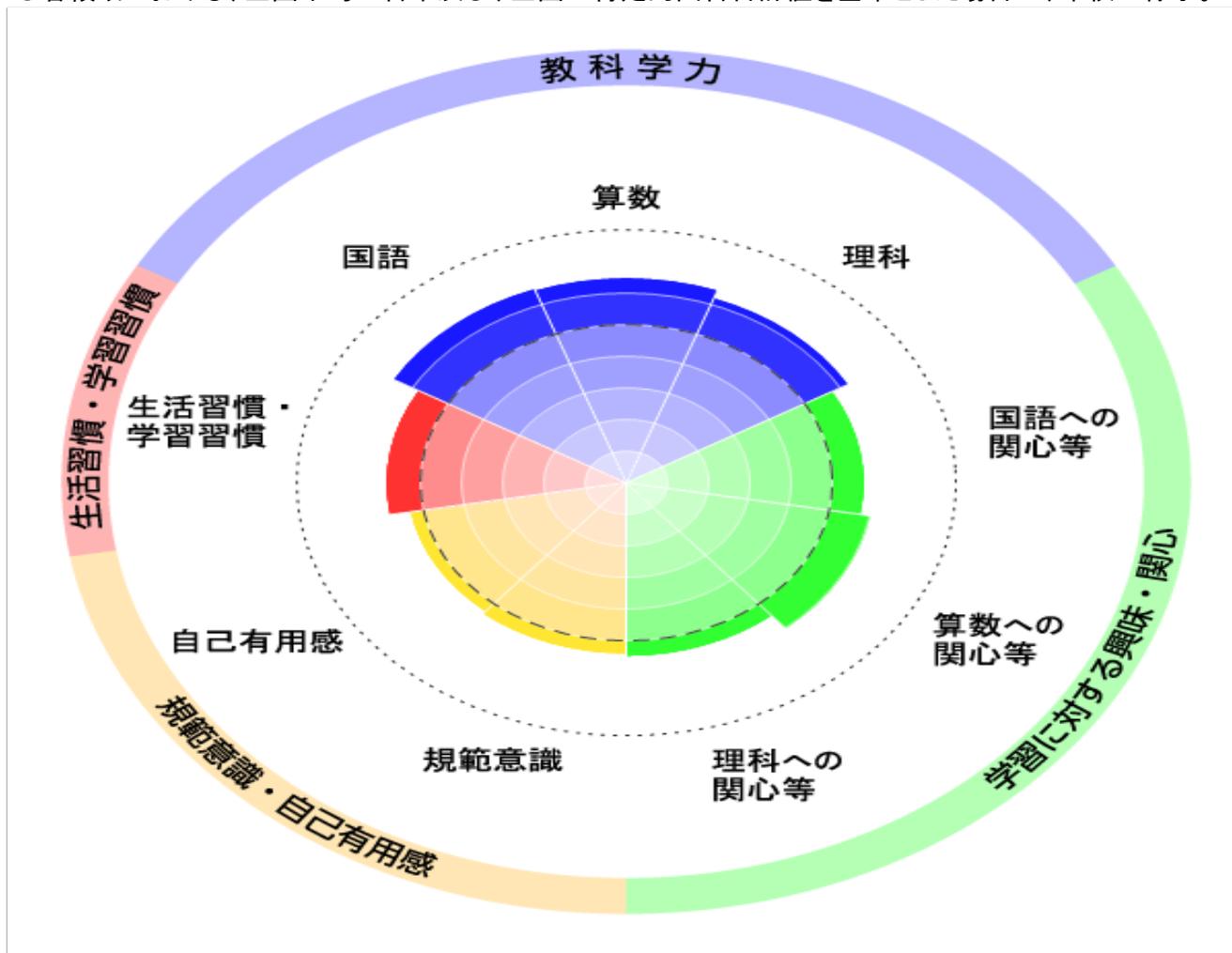


令和4年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（小学校）

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語は、どの領域においても平均値を超えているが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が極めて高い。一方で、「話すこと・聞くこと」は平均値を3ポイント上回るに留まり、話し合いの要点を捉え、それに基づいて自分の意見をまとめる力に課題がある。

算数は、どの領域においても平均値を超えており、特に「図形」「変化と関係」「データの活用」の正答率は極めて高い。全体の結果を細かく見ていった中で課題と思われる点は、目的に合った数の処理の仕方を考察できるかを問う問題の正答率が37.1%、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているか問う問題の正答率が29.1%という2つ。いずれも国や都の平均率こそ上回っているものの、極端に正答率が低い。

理科は、「エネルギー」「粒子」「地球」「生命」の各領域において、大きく平均値を上回っている。一方、全体の結果を細かく見ていった中で課題と思われる点は、「光の性質」において、全国平均値を唯一下回ったり、正答率が50%を下回ったりする問題があった。

《授業改善のポイント》

国語は「話すこと・聞くこと」についての正答率が低かった。授業中においては、主体的に話し合い活動に参加する姿勢を定着させ、必要なことを適宜質問したり、話し合いの意図を明確にしながら自分の考えをまとめたりする活動を取り入れていく。

算数では、なぜその計算方法を使うべきなのかを友達に説明する場面を多く取り入れ、目的に合った処理の仕方を選択できる力を育てていく。目先の数量変化によって基礎的な割合の決まりが揺るぐことのないよう、基本に立ち戻る習慣をつけさせる。例えば、各単元において、学習の振り返りの時間を充実させることも大切にしたい。

理科では、中学年で学習した単元など、内容を忘れてしまっている可能性がある。中学年から高学年に至るまで、学校全体で同じ形式での「理科の学習の流れ」を一貫して指導し続けることで、学習内容の一層の定着を図りたい。また、それぞれの学年で各単元を学習する際、同領域の既習事項を振り返る機会も大切にしたい。

《チャートの特徴》

学力調査の結果では、国語・算数・理科への関心ともに全国平均を上回っている。また、平均正答率についても全国平均・都平均を上回った。

学習状況調査の結果では、いずれの項目においても全国平均・都平均を上回っているが、「自己有用感」、「規範意識」の数値がやや低い傾向にある。

《家庭・地域への働きかけ》

ホームページや学校便り等で、全国学力・学習状況調査の結果を公表する。調査結果の個票を返却する際には、一人一人の課題を共有し、各家庭での取り組みや励ましへの参考としていく。また、規範意識の向上や生活習慣定着のために、保護者会や家庭学習週間の取り組みを通して協力をお願いしていく。